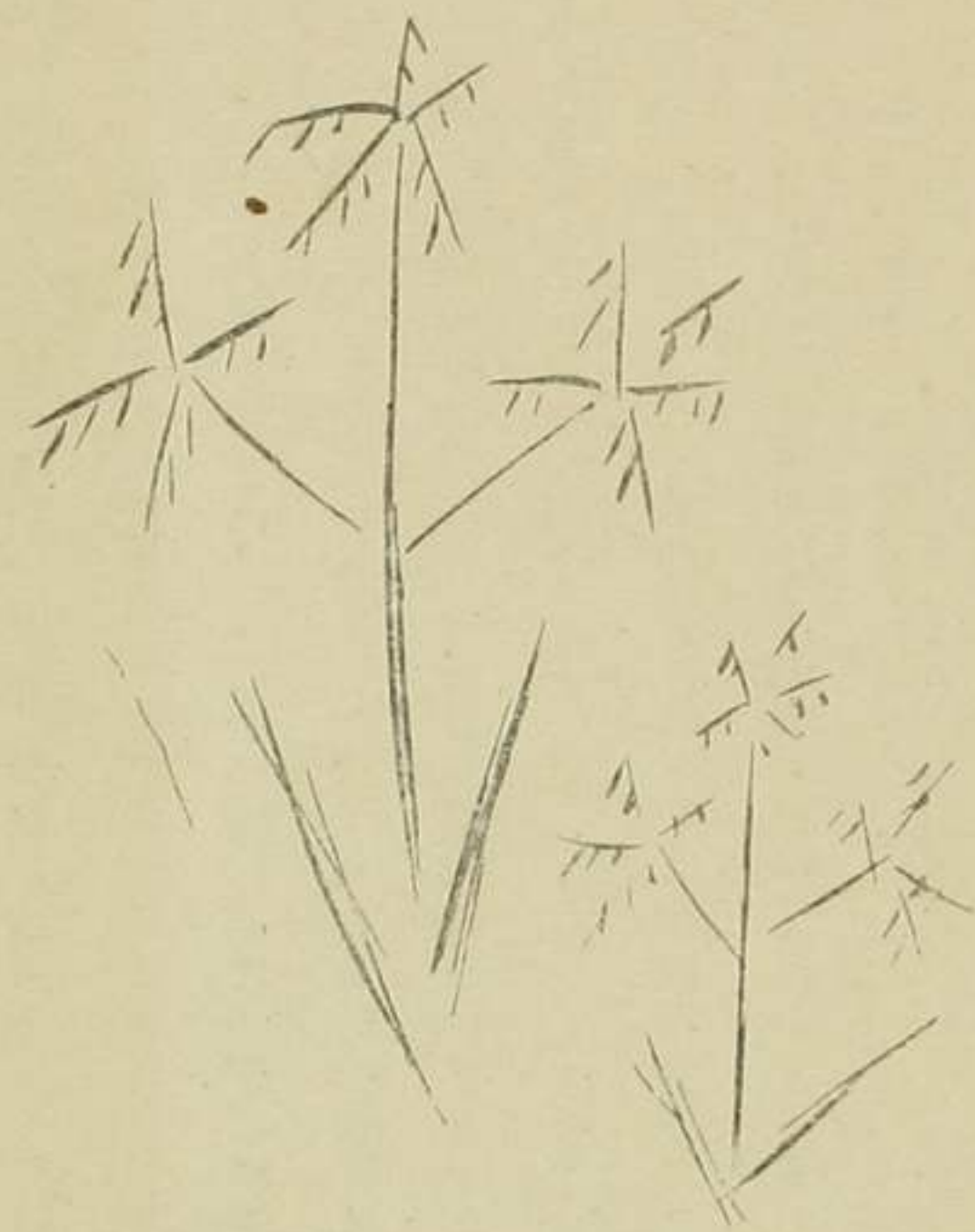
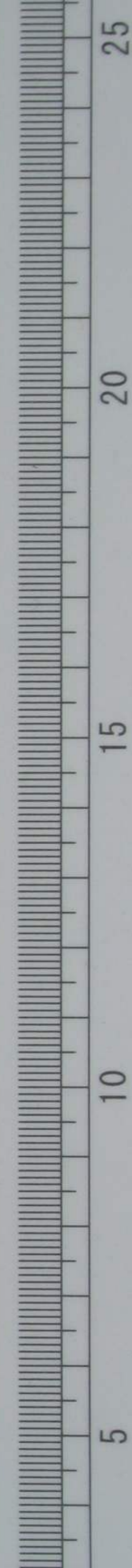


# 勤き末ろの

詩集



白秋 伴方 三浦  
4  
東京 銀座 座 阿 魯 斯





白秋パンフレット

- 第一輯 短唱 月光微韻 既刊  
第二輯 短章 落葉松 既刊  
第三輯 短章 初冬の星 既刊  
第四輯 詩集 動き来るもの 十月刊  
第五輯 民謡體  
短章 薄陽の旅 十月刊  
第六輯 小唄 雀の頭巾 十月刊

定價各册參拾錢 送料貳錢

白秋パンフレットの言葉

この白秋パンフレットはわたくし自身の詩歌、小品、評論、隨筆等、その種類の何たるを問はず、成るに従て隨時一々の小冊子として刊行するものである。たとへば一莖の甘藍若くは一穎の林檎のごとく、新鮮に、而かも最も簡易に衆人の眼に觸れ手に觸れ心に觸れむことを希ふものである、わたくしは貧しかった。それ故にかうした値廉きこの種の刊行はかねての本願であつた。で、わたくしは同時に童謡或は民謡の普及版をも順次に公刊する。ただ此のパンフレットは如上の二種の歌謡を除き、その他の創作、中にも主として新作を旨とするつもりである。なほ、未刊の舊作、或は既刊の物でも極めて特殊な作品として分冊の必要がある場合には、稀には収録することもあるだらうと思ふ。而して世の富者には一方思ひきり贅を凝らした高價の珍蔵書として類別蒐集したい微笑をも許してほしく思ふ。

大正十一年夏

北原 白秋

勤まの果る主し

詩集

北原 白秋 著

小序

神機の動く。静寂きはまりて来る。静深うして後、動いよいよ強し。据わらば金剛不壞なるべし。此の据わりあり、初めて生々潑刺の氣韻成らむ。東洋藝術の根本は此の精神の不動にあり。

古池や蛙飛び込む水の音 芭蕉

白  
秋

目次

蘇	葛	晝	夜	風	朝
枋	の				
	枯				
	葉			五	
				章	
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
：	：	：	：	：	：
二	三	一〇	八	三	一
五					



啼き出づるものあり。  
今朝早う堰せきかれて、  
満ち、溢るるものあり、  
靄深く立ちこめし野川に、  
今朝早く目ざめて、  
羽ばたき起きるものあり。  
今朝まだし暗きに  
飛び立ち光るものあり。

風

-

遠きもの  
まづ揺れて、  
つぎつぎに、  
目に揺れて、



揺れ来るもの、  
 風なりと思ふ間もなし、  
 我いよよ揺られはじめぬ。

## 二

風吹けば風吹くがまま、  
 我はただ揺られ揺られつ。  
 揺られつつ、その風をまた、  
 わがうしろ遙かにおくる。

## 三

吹く風に揺れそよぐもの、  
 目に満ちて、  
 翔る鳥、  
 たゞ一羽、  
 弧は描けど、  
 揺れ揺れて、  
 まだ、空の中。

四

吹く風の道に、  
 驚きやまぬものあり、  
 光り、また、暗みて、  
 をりふし強く、急に強く、  
 光り、また、暗む、――  
 すべて秋、今は秋。

五

輝けど、  
 そは遠し。  
 尾花吹く風。

## 夜

ふと、光り、  
闇に沈みぬ。  
何かまた寝おびれにけむ。

夜は暗し、  
まだ深し。

ああ、神よ、  
また、しばし我も眠らむ。

## 晝

人の身のあはれさ、  
 我なるもののさびしさ。  
 つくづく見つつゐたれば、  
 照り満つる海の面を

小舟るてひとつ走り來、  
 旗ひとつ立てて走り來、  
 その舟はややに進みて、  
 銚杉の梢うれにかかれり。  
 すぐにまた杉を離れて  
 かがやかに揺れ進みゆく。  
 かがやかに揺れ進みつつ、  
 また暗き松にかかれり。  
 と、見れば、  
 ふと起るモオタアの響。

我が外の眼路のあはれさ、  
 見つゝゐる我のさびしさ。  
 その舟は松にかくれて、  
 また遂に影も見せず、  
 ああ、あはれ、午、  
 朗らなる空と海とに  
 まだ響くモオタアのその音ばかり。

## 葛の枯葉

葛の枯葉に

日はあつても  
 鴨がちいびい啼くせいか、  
 何か、遠くで時雨れます。

岩に龍膽、松蟲草、  
咲いたばかりで凍えます。  
鴨が、ちいびい啼くせいか、  
またも雲が走ります。

蘇  
枋

陽の目の遠い林に  
蘇枋の木が枯れてる。  
藤むらさきの實ばかり、  
ちらちら、宙に透いてる。

今朝のつめたい雲に  
ちらちら、濡れて透いてる。

薄  
陽

枯れ枯れ動く蘇枋に  
藤むらさきの實の透き、  
たまさか雹の飛ぶ冬、  
冬は薄し、つめたし、  
岩より岩へ陽の退く。

## 冬

冷めたく薄き冬、  
 孟宗の黄に、  
 榧かやの秀ほの黒く尖る冬、  
 山近く、高し、  
 雲凍こり、遠し、  
 ああ、ああ、木兎きとの家の冬。

## 枇杷の花

幽あやかなりや、枇杷びは、  
 冷めたく白く咲いたり、  
 木兎きとの家の前。  
 空は澄み、  
 時に、飛ぶ  
 一羽二羽の鶉。



栗鼠

一

栗鼠、  
尾ばかりの栗鼠、  
うしろ向きの栗鼠、  
くるつと向け、

鴨が高く飛ぶぞよ。

二

栗鼠よ、啼け、  
光つて啼け、  
雲が雹に變るぞ、  
雹が岩をたたくぞ。

## かやの實

かやの木に

かやの實の生<sup>な</sup>り、

かやの實は熟れて落ちたり。

かやの實を拾はな。

## 寒竹の

寒竹の一つ一つに

泌みて光る風あり、

冬の光か。

發行所  
東京橋區  
尾張町  
會社  
アルス  
電話銀座二四八八番  
振替東京二四八八番

有所權版

刷印日七月十年~十正大  
行發日十月十年一十正大

秋白原北者作者

者表代スルア社會資合  
雄鐵原北者行發  
號五地新町張尾座銀區橋京市京東

郎太源本山者刷印  
地番五十四町堅久區川石小市京東

子金本製

動き來るもの

定價 參拾錢

白 秋 童 謠

北原白秋氏著

菊 版 定價各冊參拾五錢  
二度刷美本 送料各冊二錢

第一輯	螢	小杉未醒氏畫
第二輯	夢	前川千帆氏畫
第三輯	の	小杉未醒氏畫
第四輯	祭	木村莊八氏畫
第五輯	の	森田恒友氏畫
第六輯	ねんねのお鳩	木村莊八氏畫

アルス詩歌集

		定價	送料
北原白秋氏著	詩集 觀相の秋	1.80	.17
北原白秋氏著	白秋詩集第一卷	2.80	.17
北原白秋氏著	白秋詩集第二卷	2.80	.17
北原白秋氏著	抒情小詩 わすれなぐさ	1.80	.13
北原白秋氏著	白秋小唄集	1.80	.13
北原白秋氏著	民謡集 日本の笛	2.80	.18
蒲原有明氏著	有明詩集	3.50	.23
三木露風氏著	象徴詩集	2.80	.18
三木露風氏著	抒情小詩 生と戀	1.80	.13
室生犀星氏著	室生犀星詩選	2.20	.17
日夏耿之介氏著	詩集 黒衣聖母	2.50	.17
日夏耿之介氏著	詩集 轉身の頌	2.50	.17
萩原朔太郎氏著	詩集 月に吠える	2.50	.17
北原白秋氏編	第二木馬集	1.30	.15